

開催地名	高知県南国市
開催日時	令和6年1月21日（日） 9:00 ～ 12:00
開催場所	ザ・ミーニッツ グランドホール
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、民生委員、市職員、住民 75名
開催経緯	本市は幸いなことに大規模災害を経験していないことから、大規模災害発生後の自主防災組織をはじめとする住民にどのような災害対応が必要となるかといった防災意識を持つことが課題となっている。 このことから、過去の災害体験や教訓を受け継ぐことで防災意識の向上を図ることを目的としている。
内容	（１）はじめに（防災の基本） 災害との共存を考えていかなければならない。その為にも災害を考えて行動し、危機感を持ち、そして想定以上の備えをすることが大切である。まずは家庭で出来るところから始めて欲しい。住宅・外壁の耐震、室内の点検、備蓄品の準備等。比較的、忘れがちなのが外壁である。過去に倒れたブロック塀で小学生が亡くなる事件もあった。 そして自助・公助で出来ないことを、共助・地域全体で防災を行っていく必要がある。 （２）共助・地域防災 大地震が起こると避難所が必要となるが、避難所にも種類がある。特に「一時避難場所」「地域指定避難所」が地域防災において大切である。 一時避難場所は学区内の各町内会で自由に決めており、公園などが設定される。震度5強になったらまずは一時避難所に集合し、地域の安否確認を行う。一時避難場所で安否確認を行っている間に、地域指定避難所の安全性確認を行っておく。 地域指定避難所は小中学校（一部の高校）に設定している。26項目のたたき台（離乳室・更衣室・遺体安置場所設置など）があり、小中学校に配布されている。災害が発生してからでなく、事前に落とし込んでいる。 また、福祉避難所も高齢者施設・医療福祉施設などと協定を結ぶことによって、ケアマネジャーと協力し、要支援者の状況などが把握できる。また普段使っている送迎用車なども災害時にうまく活用できることが多い。避難所は自宅で生活できない方が利用する。その為、避難所の役割、優先順位を明確化する事はとても重要である。 （３）地域防災へのアドバイス ・防災マップ 防災マップはカラーで印字し、A3サイズにラミネート加工することに意味がある。ラミネート加工する事で折り曲げることが出来ない。そして油性ペンで書いても消せることができる。またA4の資料・チラシ等が多いので、A3サイズだとだと紛れ込まないメリットがある。

	・防災マニュアル 文字を大きめに（18ポイント）設定する。また防災の事に関して回覧板は使わない。回覧板は町内会員しか見ないので、必ず各家庭にポスティングしている。 ・防災訓練 昼の防災訓練だけでなく、夜の防災訓練も行うこと。そして小中高校生は必ず役割を与える。逆に会社勤務されている方は避難所活動に役割を与えなかった。これは東日本大震災の経験を活かしている。沿岸部は津波で会社自体も流されてしまったが、内陸部は会社の後片付けで、地域に居なかった方が多かった。その教訓もあり、会社勤務の方には役割を持たせないようにしている。 ・防災用品 市からの助成金はないので、繰越金から防災費を計上している。平鍋はお湯が沸きやすい（寸胴はNG）ので便利だし、在宅介護用トイレは非常に助かった。サランラップもお皿が洗えない時に便利、また発泡トレイもお皿替わりになる。あとポリタンクがなくてもゴミ袋と段ボールさえあれば代用として使える。それとお風呂の残り湯も断水への備えの為、洗ったら直ぐに水・お湯を張って、浴槽は空にしない習慣をお勧めする。 最後にこの6つは枕元に置いて欲しい。①靴下②厚底スニーカー③携帯ラジオ（イヤホン付けたまま）④防犯ブザー⑤ヘッドライト⑥フード付き雨具 （4）最後に（地域防災活動を継続していくためには） 町内会・自治会・学校などと連携し、地域全体で取り組むことが鍵となる。特に子供は地域活動の起爆剤となり、想像以上の活躍をしてくれる。全体で進んでいくことに難しい部分もあると思うが、町内会長・自治会長がリーダーシップを取って、地域防災を行っていただきたい。
開催地より	東日本大震災の避難所運営の体験談について、具体的な話を織り交ぜながらお話しいただいた。改めて、南海トラフ地震時にどのように活動していけばよいかなどイメージが湧きやすくなったと思う。 今後本市としては、自主防災組織や地域住民への更なる啓発と、避難所運営訓練等の実践演習に取り組んでいきたい。